

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が24例(男性14例(10歳代3例, 20歳代2例, 30歳代2例, 40歳代1例, 50歳代1例, 60歳代1例, 70歳代1例, 80歳代1例, 年齢非公開2例), 女性10例(20歳代4例, 30歳代2例, 40歳代2例, 50歳代1例, 70歳代1例))あり, 本年の累積報告数は21,041例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **クロイツフェルト・ヤコブ病**の報告が1例(80歳代男性)ありました。症状は進行性認知症, 錐体路症状, 小脳症状等です。本年初めての報告です。
- ・ **梅毒**の報告が3例(40歳代男性2例及び50歳代男性1例)ありました。本年の累積報告数は51例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
京都市では, 平日及び土日の昼間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を予約制で実施しています。
詳細については, 下記のホームページをご覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>
- ・ **インフルエンザ**は市内69の定点医療機関から1例の報告があり, 定点当たり報告数は0.01でした。全国は0.00(約4,900定点からの報告数13例)でした。昨シーズンの同時期の定点当たり報告数は京都市0(全国:0.00, 報告数20例)で, 昨シーズン同様に例年と比べると非常に少なく, 全国的にも流行の予兆は見受けられませんが, 感染予防を心掛けましょう。
- ・ **手足口病**の定点当たり報告数は, 京都市が1.44(62例)で前週の1.23(53例)からやや増加しました。全国は1.62(前週1.71)で10週ぶりに減少しました。鹿児島県を除く九州各県では警報状態が継続しています。京都市でも引き続き動向に注意が必要です。
- ・ **ヘルパンギーナ**の定点当たり報告数は, 1.05(45例)と前週の2.07(89例)から半減しました。全国では0.71(前週0.71)で横ばいです。

◆ 今週のトピックス:<梅毒>

京都市の梅毒は第42週に3例の報告があり, 本年の累積報告数は51例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別, 年齢, 症状, 感染地域※, 感染経路※の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- ・ **二類:結核 8例(肺結核 4例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 2例)**うち喀痰塗抹陽性 3例)
【1月以降の累積報告数 202例(肺結核 70例, その他結核 62例, 潜在性結核感染者 70例)うち喀痰塗抹陽性 34例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 24例**【1月以降の累積報告数21,041例】
- ・ **五類:クロイツフェルト・ヤコブ病 1例**【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ **五類:梅毒 3例**【1月以降の累積報告数 51例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0. 01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1. 88	81
	② 手足口病	1. 44	62
	③ ヘルパンギーナ	1. 05	45
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 42	18
	⑤ 突発性発しん	0. 21	9
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス:<梅毒>

付表(疾病, 行政区分別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

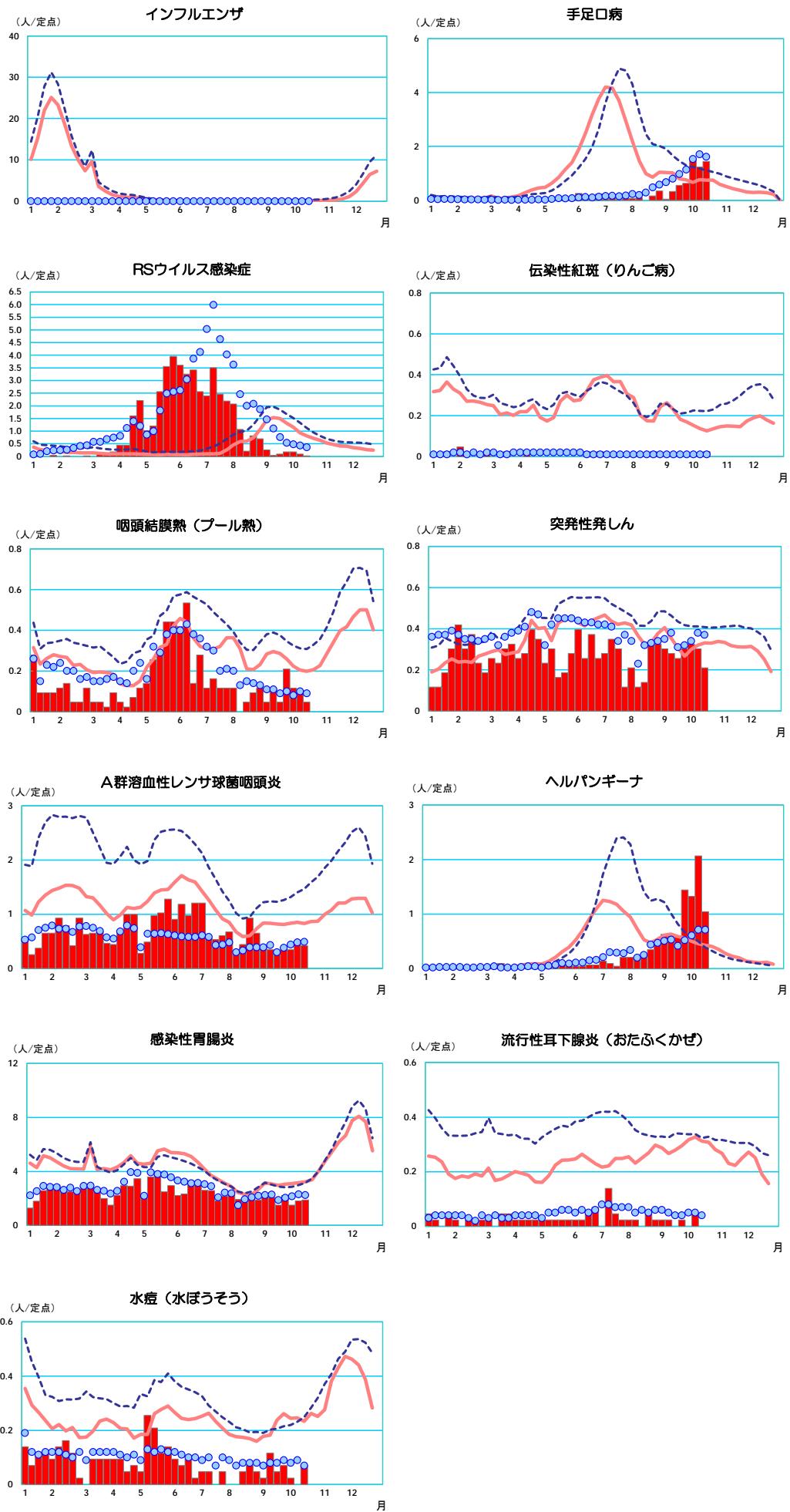
(注) 京都市のデータは, 2021年10月27日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。

また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

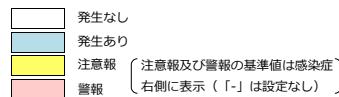
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）

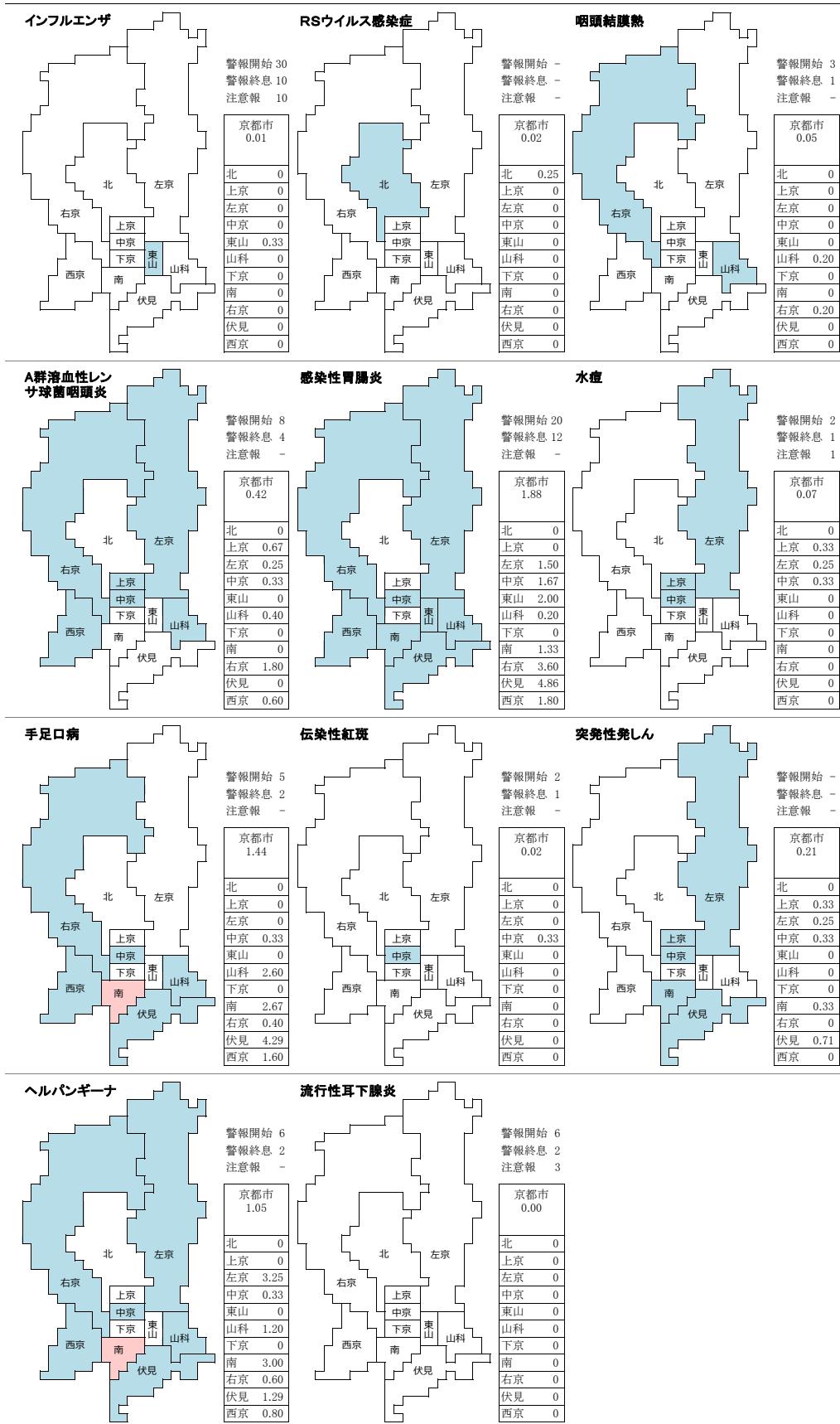
京都市_本年 京都市_過去5年平均値
全国_本年 全国_過去5年平均値



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年第42週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがいまして、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第42週(10月18日～10月24日)トピックス：<梅毒>

■発生動向

京都市の梅毒は第42週に3例の報告があり、本年の累積報告数は51例となりました。本市の2014年以降の梅毒を年ごとの累積報告数で見ると、どの年も季節に変動はなく年間を通じて一定の患者が発生しています。年間の総患者数は2015年を境に徐々に増加し始め、2017年以降は、ほぼ横ばいで推移しています。本年も2017年以降の報告数と同じような発生状況で推移しています(図1)。

男女別の報告数では、近年女性患者が増加していることが問題となっていますが、本市では現在のところ、本年は男性35例、女性16例と男性が女性の倍以上の報告数となっており、顕著に男女差が出ています(図2)。男女別の年齢階級別の報告割合は、どの年も男性では20歳代及び30歳代の割合が一番高いものの、40歳代以上の割合も30～50%程度あり、幅広い年齢層で報告されています。一方女性は、2014年を除き、男性に比べて若年層が多くなっており、特に20歳代の割合が最も高く、30歳代以下では80%以上を占めています(図3)。

梅毒の若齢女性患者が増加すると、治療しないまま妊娠し、胎盤を通して胎児に感染することが危惧されます。適切な治療がなされなければ流産や死産、先天梅毒を生じる原因となります。今後は啓発、予防、早期発見、早期治療に注力しなければなりません。

■症状

梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌による感染症です。感染者の患部に含まれる梅毒トレポネーマが、主に性的接触により粘膜や皮膚の小さな傷から侵入し感染します。初期症状では陰部、口唇、口腔内にしこりができるますが、無治療でも一旦は症状が消失するため、見逃してしまうことも多く、感染を自覚しないまま相手に移してしまい、蔓延の原因となります。数年から数十年の長期間の潜伏の後、晚期まで梅毒を放置していると心臓、血管、脳など複数の臓器に病変が生じ、死に至ることもあります。コンドームを使用する等で予防するとともに、皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

京都市では、平日(昼間・夜間)及び土日(昼間)にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています(現在は予約制)。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

図1 京都市の梅毒の累積報告数の推移(2014年～2021年42週)

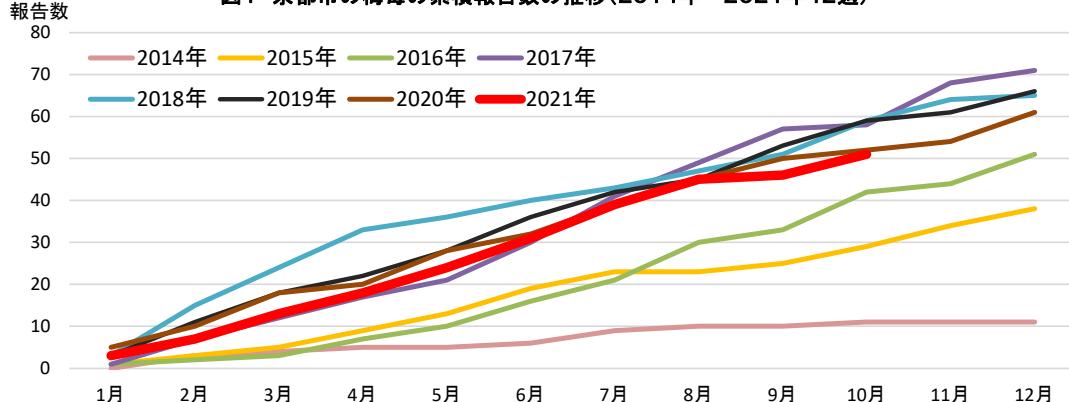
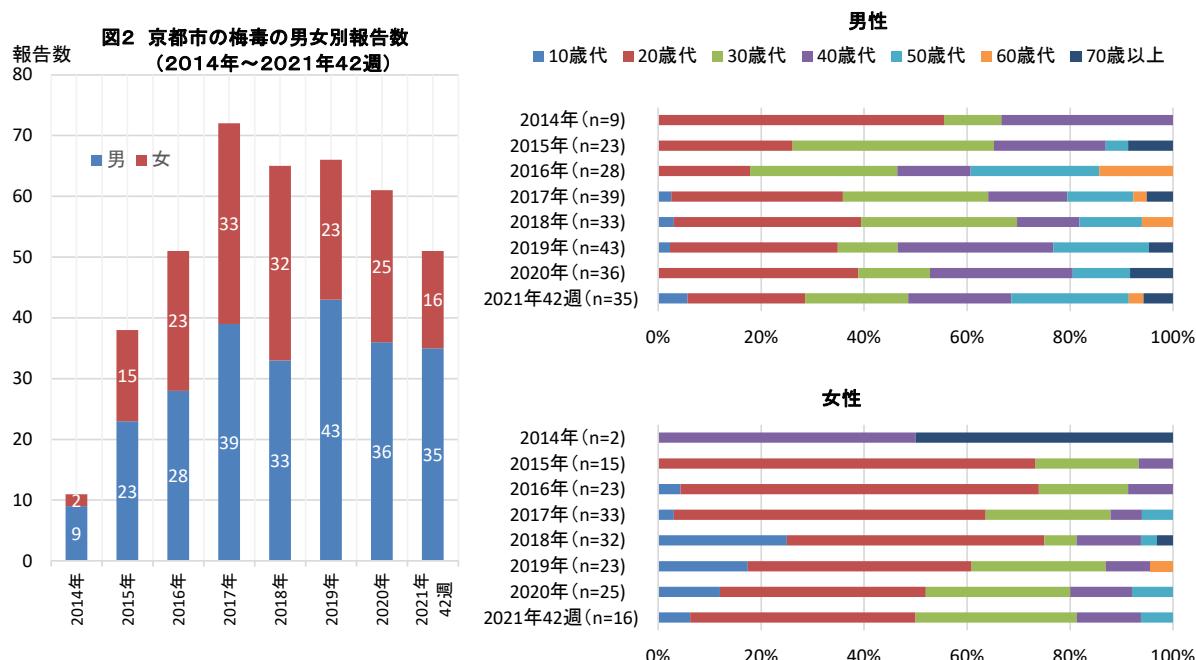


図3 京都市の梅毒年齢階級別報告割合(2014年～2021年42週)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第42週

疾病,行政区別報告数

2021年10月18日～2021年10月24日

データ入手日:2021年10月27日

	インフルエンザ (※ ¹)	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A炎群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性齶膜炎(※ ²)	無菌性齶膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※ ³)	感染性胃腸炎(※ ⁴)
男女合計																		
北	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上京	-	-	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
左京	-	-	-	1	6	1	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	
中京	-	-	-	1	5	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
東山	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山科	-	-	1	2	1	-	13	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南	-	-	-	-	4	-	8	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	
右京	-	-	1	9	18	-	2	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	
伏見	-	-	-	-	34	-	30	-	5	9	-	-	-	-	-	-	-	
西京	-	-	-	-	3	9	-	8	-	4	-	-	-	-	-	-	-	
京都市計	1	1	2	18	81	3	62	1	9	45	-	-	1	-	-	-	-	

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※ ¹)	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A炎群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性齶膜炎(※ ²)	無菌性齶膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※ ³)	感染性胃腸炎(※ ⁴)
男女合計																		
北	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上京	-	-	-	0.67	-	0.33	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
左京	-	-	-	0.25	1.50	0.25	-	-	0.25	3.25	-	-	-	-	-	-	-	
中京	-	-	-	0.33	1.67	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	
東山	0.33	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山科	-	-	0.20	0.40	0.20	-	2.60	-	-	1.20	-	-	-	-	-	-	-	
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南	-	-	-	-	1.33	-	2.67	-	0.33	3.00	-	-	-	-	-	-	-	
右京	-	-	0.20	1.80	3.60	-	0.40	-	-	0.60	-	-	1.00	-	-	-	-	
伏見	-	-	-	-	4.86	-	4.29	-	0.71	1.29	-	-	-	-	-	-	-	
西京	-	-	-	-	0.60	1.80	-	1.60	-	0.80	-	-	-	-	-	-	-	
京都市計	0.01	0.02	0.05	0.42	1.88	0.07	1.44	0.02	0.21	1.05	-	-	0.10	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性齶膜炎は齶膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第42週

年齡階級，疾病別報告數

2021年10月18日～2021年10月24日

データ入手日:2021年10月27日

年齢階級、疾病別定点当り報告数

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第42週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年10月27日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-	1
RSウイルス感染症	2	4	8	8	4	4	1
咽頭結膜熱	5	2	9	5	4	4	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	11	15	15	19	18	
感染性胃腸炎	89	65	95	65	78	81	
水痘	5	2	3	1	-	-	3
手足口病	14	24	27	66	53	62	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	1
突発性発しん	12	11	13	14	13	9	
ヘルパンギーナ	27	25	62	57	89	45	
流行性耳下腺炎	1	-	1	-	2	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	2	-	2	1	
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-	-
合 計	171	144	235	231	264	224	

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-	0.01
RSウイルス感染症	0.05	0.09	0.19	0.19	0.09	0.09	0.02
咽頭結膜熱	0.12	0.05	0.21	0.12	0.09	0.09	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	0.26	0.35	0.35	0.44	0.44	0.42
感染性胃腸炎	2.07	1.51	2.21	1.51	1.81	1.81	1.88
水痘	0.12	0.05	0.07	0.02	-	-	0.07
手足口病	0.33	0.56	0.63	1.53	1.23	1.23	1.44
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	0.02
突発性発しん	0.28	0.26	0.30	0.33	0.30	0.30	0.21
ヘルパンギーナ	0.63	0.58	1.44	1.33	2.07	2.07	1.05
流行性耳下腺炎	0.02	-	0.02	-	0.05	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	-	0.20	-	0.20	0.20	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-	-
合 計	4.05	3.35	5.62	5.37	6.29	6.29	5.28

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1について含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。